

令和5年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

1 日時 令和5年7月26日（水）午後3時～午後4時45分

2 場所 伝国の杜 第1、第2小会議室

3 出席者

（委員） 9名出席

井家 勝己 地主 忠亮 今野 孝義 新井千香代 鈴木和賀子
近藤 里美 永井 学 高野 正雄 山村 洋子

（事務局） 9名

種村信次（理事長） 島津真一（副理事長兼博物館長） 渡部洋己（常務理事兼事務局長）
花田美穂（学芸担当主査） 阿部哲人（主査学芸員） 安部理絵（主査） 寒河江大輔（総務担当主査） 小松史織（主事） 鈴木里津（主事）

4 開会

5 委嘱状交付

委嘱期間は令和5年7月1日から令和7年6月30日まで。

6 あいさつ（理事長）

この度、皆様には2年間の運営協議会委員を委嘱させていただいた。伝国の杜のよりよい運営のため、展示やイベントに参加していただき、ご意見を頂戴したい。

博物館の令和4年度の利用者数は約104,000人、置賜文化ホールは約35,000人であり、令和3年度と比較すると36%増加した。今年度はコロナ禍の状況も改善傾向であるため、コロナ禍以前の利用者数に回復させていきたい。春の展示「上杉景勝と関ヶ原合戦」では15,854人の入館者数があり、大変好評を頂いた。

現在開催している「今泉篤男と美術」においては、昨年度比で入館者数が伸び悩んでいるが、観覧して頂いた方には大変好評を頂いており、是非皆様にも観覧して頂き、ご意見を頂戴したい。

委員の皆様からご意見を頂戴し、よりよい運営に務めていきたいと考えているため、本日も様々ご意見を願います。

7 委員および事務局自己紹介

8 会長及び副会長の選出

互選により、会長に高野委員、副会長に今野委員を選出。

9 会長あいさつ

前期に引き続き、委員を仰せつかり、今期会長を務めさせて頂くことになった。精一杯務めさせて頂くので皆様のご協力をお願いしたい。

10 情報公開について

事務局より本運営協議会の会議及び議事録は原則公開としたい旨を提案し、了承を得た。

1.1 伝国の杜運営協議会の位置付けと主な活動について

概要を事務局から説明。

1.2 報告

(1) 令和4年度の事業概要と令和5年度の事業計画について

概略について事務局から説明。

(委員) 以前ファンクラブに加入していたが、現在はなかなか来館することが出来ずにいた。事業概要を見ると、様々な企画をされており、参加すればよかったと感じたとともに、ファンクラブやサポーターの人数を増やせればよいと考えた。また、企画内容について、多岐に渡り活動されていると感じた。

(事務局) 地域の方々に理解してもらい、一緒に取り組むのが我々の基本理念である。ファンクラブのPR活動も行っているので、是非皆さんからもご協力をお願いしたい。また、サポーターの方からは、我々と一緒に事業を創り上げていきたいという想いを伺っているので、その想いをしっかりと受け止めながら事業に取り組んでいきたい。

(委員) 高校においても、伝国の杜の施設利用の啓発活動を進めていきたい。また、山形大学工学部と連携して教育活動を進めているという事例があるので、市内の施設と連携し、生徒の学びがより深まるような取り組みを展開していきたい。

(事務局) 当館常設展は、上杉氏に特化した内容になっているため、観光客や大人向けの側面が強い展示である。その中で、市内の小中高生が団体で利用して頂き大変ありがたく感じている。米沢市内の小中生には、9年間の中で米沢上杉の歴史に触れてもらいたいと考えている。高校生は市立米沢図書館で勉強している生徒が多いようなので、米沢だけではなく置賜の高校生にも博物館に来館して頂けるよう声がけして頂ければと思う。また、現在開催している企画展「今泉篤男と美術」について

は、県外の方にも観覧して頂いており、好評である。是非、小中高生にも観覧して頂きたいと考えている。更に、博物館見学を授業の一環としても組んで頂きたい。

(委員) 養護学校と伝国の杜の連携はあるのか。

(事務局) 特に美術系の鑑賞の授業や、体験学習室での造形体験に来て頂くなど、先生方と連携して利用して頂いている。

(委員) 現代の子ども達は、様々な展示を見る環境が整っていると考える。文化を学ぶには、色々な多様性を人それぞれが高めていくことが大事で、展示を観覧する体験は重要である。その中で、博物館は、出前授業で学校を訪れた際に博物館への来館を促すなど地道な活動をされていると思う。その他、学芸員を中心にサポーターへの教育や教育普及への取り組みなど熱心にして頂いていると感じた。

(事務局) 職員の視点だけでは気が付かない点があるため、引き続き委員の皆様からご意見を頂戴し、ご指導をお願いしたい。

(委員) 博物館は、中学生にとって敷居が高いイメージがある。そのため、博物館の楽しみ方を伝えて、来館するきっかけづくりに取り組んでいきたい。頂いている情報を活かし、様々な角度からアプローチしていきたい。

(委員) 資料3「令和4年度事業評価(統括表)」2ページ「2-2施設の維持改修等」と「2-3 運営組織体制の維持・向上」のKGIが0であるが、KPI達成率が計上されている。これは実績がなくても達成率が発生し、評価されるものなのか。

(事務局) KGIは最終的な目標値である。「2-2施設の維持改修」では、中期改修計画の達成率を50%と設定しているが、計画を制定していないため、実績値が0%となっている。KPIは、KGIを達成するための活動目標指標であり、この項目では、3つのKPI指標の平均達成率が66.2%となっている。評価はKPI指標と成果の2つを資料3-1の「総合評価判定表」に当てはめ、それぞれ総合評価を出している。

(委員) どの数値に対して66.2%達成となっているのか。

(事務局) 一つ一つの達成率を記載していないので分かりにくくなっているが、「令和4年度(公財)米沢上杉文化振興財団事業評価一覧」の、「2-2施設の維持改修等」は、①の「修繕に関する予算の執行割合」の目標値100%に対して、100%執行した実績となっている。次の②の「米沢市との定期的な情報交換会の実施」は開催目標15回に対して13回実施し、約80%の達成率となっている。最後の③の「中期的改修計画の策定数」は、1件も策定がないため0%となっている。この3つの実績を平均したものが66.2%である。

(会 長) 評価については、内容が難しいため内容について説明する機会を設けて頂きたいが、可能か。

(事務局) 評価については今後も行っていくので、次の機会に改めて説明したい。

(委 員) 歴史系の展示は、一般の人が内容をすぐ理解するのは難しいため、興味を持ってもらうのは難しいと思うが、今回春の展示では、うさぎとねこの会話形式で小さい子どもにも内容が分かるような解説があり、よく工夫されていると思った。また、新型コロナが5類になったこともあり、ギャラリートークでは全国から多数の参加者があった。刀の展示もあったため、そちらに興味がある方も誘致出来たのではと思う。ファンクラブは、長年入会しているが、最近ではコロナ禍もあり来館者が減少し、少し寂しい雰囲気であった。先日、山形大学主催の市民講座に参加した際、最上義光に興味があり山形大学に入学した学生がおり、ファンクラブの紹介をした。昔、小学生の頃は、授業で上杉氏に関する史跡に足を運んだりしたが、現在の小学生は昔ほど行かないようであるので、学校で取り組んでもらえればと考える。

(委 員) 小学校では、2年生の生活の授業で公共機関を使用して出かけ、伝国の杜を見学する班もある。3、4年生は、郷土の授業で、上杉氏について必ず学ぶことになっている。昨年テレビ番組「秘密のケンミンSHOW極」でも取り上げられたように、市内各学校の体育館に上杉謙信公と鷹山公の肖像画が掲げられており、市内の小中学生は、上杉氏について学んでいるのではと考えている。なお、6年生は、歴史を学ぶので上手く博物館と連携していけるのではないか。また、毎年、学校によっては出前授業に来ていただいております、積極的に活用するよう教頭会において呼びかけをしている。また、若手教員や歴史に興味がある生徒に積極的に展示を見学するように声がけをしている。将来的にも来館を促し、そして学校の特性を活かした広報活動をしていきたいと考えている。

1 3 意見交換

(1) 伝国の杜（上杉博物館・置賜文化ホール）に期待すること
趣旨を事務局から説明。

(委 員) 高校では、各学校の実情に合わせた探究学習を進めている。その中で、異文化理解の前にまず自分の地域を理解しようすることを「自文化理解」と表現して、それをテーマに探究活動を進めているグループがある。米沢は、生徒の探究心を駆り立てる素材が非常に豊富であり、進学で米沢を離れる生徒は多いが、「自文化理解」で米沢の良さを学んだ生徒が、将来的に米沢に戻ってくる可能性もあると思う。そのために、博物館を積極的に活用出来るよう高校間で共有していきたい。

- (委員) 多くの人に来てもらうには、観光面に力を入れ、昨年行ったような刀剣のコラボなど企画を考えてはどうか。また、観光客の交通の便を考えた時に、利便性が高い交通機関が充実するとよいと思う。また、博物館では多様な企画をしているので、広報に力を入れてはどうか。
- (委員) 昨年、ホール事業では「KENSY0deJazz」という催しがあり、気軽に参加できるような取り組みで良かった。型にはまったものだけではなく、この様なラフな企画をしてはどうか。また、能楽に関しては格式が高いのか、なかなか浸透しにくいようである。「こども狂言」のように、日常的に接するものがあれば浸透していくのではと思う。博物館に関しては、昨年行った「上杉家伝来の古写真展」のイベントでは写真が好きな方など様々な層の来館があったようだ。その中で、明治以降や昭和期の自身の先祖や、市民の写真に興味がある方がいたので、写真のような現代に近い資料を市内の一般宅から収集し、他の地域で行っている「雛人形展」のように、上杉氏の持ち物と絡めて展示してはどうか。
- (委員) 米沢に来て浅く、まだ理解が深まっていないため、様々な立場や方面から展示をして頂ければと思う。
- (委員) 県外に行く際によく神社仏閣巡りをしている。今年委員を仰せつかったため、これから勉強していきたいと思う。展覧会情報はよくSNSを介して入手しているので、SNSを利用した広報活動に力を入れてみてはどうか。
- (委員) 前日も提案したが、SNSで情報発信し来館して頂くという循環を作るべきでは。可能であれば、伝国の杜の公式LINEをつくるなどしてはどうか。現代は携帯電話で情報を送受信できる時代なので、例えば、米沢市の公式LINEを利用し、伝国の杜のイベント情報を流してみてもどうか。また、子どもだけで来館してもらうのは敷居が高くなかなか難しく感じる。諸橋近代美術館では、ある展示物を探すとシールやしおり等が貰えるイベントを行っていた。このように、親子で楽しめる工夫があると良いのではないかと思う。現在、開催している「今泉篤男と美術」の展示は非常に良い展示であり、知人に展示について宣伝をした。やはり、宣伝が広がっていくようなSNS広報してみてもどうか。また、米沢信用金庫本店で行っているような個人作品の展示を行うと、敷居低く来館して貰えるのではと思う。
- (委員) 能楽に関して、最近は公演の前に演者から内容の説明があり、分かりやすく観覧することが出来、より一層興味が湧き、良い取り組みだと考えている。能楽衣装の着方を教えるような取り組みがあれば一層興味が湧くのではないかと思う。博物館及びホールでは様々な客層に合わせた工夫がなされているため、引き続き期待したい。

(事務局) 博物館への期待や要望を頂戴し、ありがたく感じている。やはり、私達は、多くの方々に当館を活用して頂きたいと考えているため、今日頂いた意見を受け止め、施設運営へ活かしていきたい。

(2) その他

(事務局) 今年度開催事業の事業評価について、ご協力をお願いしたい。

1.4 館内視察

実施せず。

以 上